

団体名：ロチェスター工科大学、国立聾工科大学

事業名：聴覚障害者の高等教育環境整備のための国際大学ネットワークの推進

PEN-International は、第1期、第2期を通じて目標とそれを実現するシナリオを明確に定め、マネジメント・事務局・講師も充実した体制で事業を推進し、ネットワーク拡大、参加大学の育成の両面で効果的なプロセスで推進した結果、参加国数・大学数は増加し、参加大学の満足度も高く、聴覚障害者の雇用機会の確保の面でも成果をあげている。また、PEN-International の活動は、社会から高く評価されており、とくに日本では PEPNet-Japan が展開され、わが国の障害者高等教育研究の充実に寄与するなど、社会的にインパクトを与えている。総括的に判断すると、本事業は卓越した事業運営が展開されていると評価できる。

< 事業プロセスの評価 >

< すぐれている点 >

- 第1期、第2期を通じて目標とそれを実現するシナリオが明確に定められており、基本的理念として、プロジェクトの3つの目標をゴールとし、3段階のステップを定めたビジョンを設定している。また、参加国・参加大学の意見を調査した上で、米国流のやり方を押し付けない基本方針を定め、事業に取り組んでいる。
- PEN-International は、すぐれたマネジメント体制のもと、事務局スタッフは個別の専門業務を経験したベテラン職員から選抜され、すべての業務を相互にカバーできるようにしているなど、自律的な組織である。
- PEN-International の拡大は、既に聴覚障害者教育の活動を行っている大学から選定しており、ネットワークの質の確保をしている。
- PEN-International の活動や成果について、ロチェスター工科大学 RIT と国立聾工科大学 NTID による内部評価を受けている。また、2009年には St. Thomas 大学による外部評価を受けている。
- 年次報告書やフォーラム・セミナーの資料が製作され、配布されている。また、全てのドキュメンテーションが Web で参照できることで、参加大学の教員・学生が自由に詳細な内容を把握している。即ち、詳細なドキュメンテーションのアーカイブになっている。

< 改善にむけての課題 >

- 第2期で更新された現在のビジョンを達成した後の次世代における新ビジョンを具体的に提示することが望まれる。
- 卒業生の就業を促進する活動は参加国各大学に任せているが、本事業の目的から判断すると、PEN-International としても具体的な支援策を検討することが望まれる。

< 事業成果の評価 >

< すぐれている点 >

- PEN-International の参加国数・大学数は、第1期（2001～2005年）が6か国、14大学、第2期（2006～2009年）が10か国、18大学となっており、着実に増加しており、参加大学の満足度は非常に高い。またイギリスで開催されるリーダー研修参加者の満足度も非常に高い。
- テレビ会議システムは、PEN-International と参加大学間において、会議のみならず、講義にもほぼ定常的に活用されている。また、参加大学相互の利用は自由で、メンバー相互の意見交換や連絡に活用されている。
- 参加国における国内研修会が開催され、参加した教員数が増加している。
- 日本・ロシア・中国では優秀な学生が大学の職員として採用され、フィリピンでは卒業生の国内就職率が100%で主にサービス産業に従事しているなど、各参加国の卒業学生の就職率は高まっている。
- 日本・ロシア・中国は、政府の資金、フィリピンは宗教系学校法人の資金により、財政的に自立を果たした。
- 日本では PEN-International の視察団によって、自律的に PEPNet-Japan が構築され、わが国の障害者高等教育研究の充実に寄与している。その活動が評価され、文部科学省は全国に障害者高等教育研究の拠点形成し、筑波技術大学に大学院を設置する構想を進めている。
- PEN-International の活動成果について、St. Thomas 大学による外部評価を受けているが、外部評価では6人の主要メンバー全員が高い評価をしている。
- Dr. J. DeCaro は毎年のように多方面から聴覚障害者高等教育の賞や表彰を受けている。このことは、聴覚障害者高等教育の社会的認知の向上に寄与している。

< 改善にむけての課題 >

- 国内に展開している国が、日本・ロシア・中国の3ヶ国に留まっている。
- 中国長春での視察ツアーでは、大学卒にそぐわない単純作業の仕事に従事している例がみられた。

< 今後の方向性 >

- 事業終了後における次世代の新ビジョンを検討し公表することが求められる。例えば、次のようなことが考えられる。
 - ・ PEN-International は維持する。
 - ・ これまでの成果を集積して聴覚障害者の高等教育環境整備に関する情報発信拠点になる。
 - ・ 参加国の多数を占めるアジア地域で、大学以前の聴覚障害者教育の充実に図る。